

創世記7 創世記3章1節～13節

「人類の墮落」

イントロ：

1. 前回の復習：ここまでの創造の7日間について学んだ。
 - (1) 創世記1：1～2：3までが創世記全体のイントロダクション（プロローグ）。
 - (2) 創世記は、11のトルドットに分かれる。
 - ①トルドットの意味は、家系、系図、子孫、歴史など。
 - ②トルドットはタイトルであり、その内容は、その後が続く。
 - (3) 第1のトルドットを数回に分けて学ぶ。
 - (4) 創世記の記事は、神話や伝承ではなく、歴史的事実である。
ヨハネ8：44、ロマ5：21、16：20、Iコリ15：21、IIコリ11：3～4、IIテモ2：14
2. メッセージのアウトライン
 - (1) 配役紹介
 - ①アダム
 - ②エバ
 - ③蛇とサタン
 - (2) 物語の展開
 - ①誘惑
 - ②墮落
 - ③霊的死
 - ④神との対面
3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 最近の事件の事例
 - ①秋葉原事件 派遣社員であった。
 - ②大阪駅通り魔事件
「(自分が車内で事件前にけがをした時に) 乗客は見てるだけで助けてくれなかった。
同じ所を切りつけようと思った」
 - ③14歳の少年によるバスジャック事件
「男女交際でしかられた。家族をめちゃくちゃにしたかった」
 - (2) 私たち人類に何が起きているのか。
 - ①問題の源はどこにあるのか。

②解決策はあるのか。

人類が抱える問題の源と解決策を探る。

I. 配役紹介

1. アダム

- (1) 無垢の状態
- (2) 聖さが確定していない状態
- (3) 人類の代表

2. エバ

- (1) 助け手（エゼル）として創造された。
- (2) 男と女とは、役割の差はあっても、対等な存在。
- (3) ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいとは思わなかった。

3. 蛇とサタン

- (1) サタンが蛇の中に入って、女と対話する。

Ⅱコリント 11：3、黙示録 12：9、20：2

- (2) 蛇とはヘブル語で「ナハシュ」

- ①ナホシェット（青銅）と語源は同じ。
- ②民数記 21：9では、モーセが上げた蛇を「ナハシュ・ナホシェット」と呼ぶ。
- ③Ⅱ列王 18：4では、偶像化した青銅の蛇を「ネフシュタン」と呼ぶ
- ④蛇は、輝きを持った生物であることが暗示されている。
- ⑤サタンもまた、光の天使を装う。Ⅱコリント 11：14。
- ⑥動詞ともなる。占いをするという意味。

創世記 30：27、44：5、15、レビ記 19：26、民数記 18：10

- ⑦名詞ともなる。占い。中近東の占いは、蛇を使うことが多かった。

民数記 23：23、24：1。

- (3) 蛇は狡猾

- ①ヘブル語では、「アルーム」
- ②創世記 2：25 アダムとエバは、アルミム（アロームの複数形）。言葉遊びがある。
- ③アダムとエバは、正直で悪については無知。サタンの畏を知らない。
- ④アルームの意味。狡猾。知恵が働く、分別がある。

⑤これは中立の言葉。蛇はそういう性質を持っていた。それ自体は悪いことではない。

⑥いい意味での例

箴言1：4、12：16、23、13：16、14：8、15、18、22：3、27：12

⑦悪い意味での例

ヨブ5：12、15：5

⑧サタンは蛇を利用することにした。自分が失った地に対する権威を回復しようとした。

II. 物語の展開

1. 誘惑(3：1～5)

(1) 2：25と3：1の間の時間の経過は分からない。

(2) サタンの最初の質問：神の命令の現実性を疑わせる。

①サタンは神学者。神のことばをあいまいにさせる。

②不自由な印象を与える。

(3) エバの回答。アダムから聞いていたこと。

①自由が与えられているという認識はある。

②禁止内容を理解していた。

③「それに触れてはいけない」。神のことばに何か足したのか？

*しかし、罪は「食べた」ことから始まる。

*アダムがこれを伝えていたのであろう。

④エバは結果を理解していた。

(4) 聖書に記された最初の嘘

①目が開け

②神のようになり

*サタンは自らこの欲望を持っていた。

*イザヤ14：12～14。5つの野望。第5の野望は14：14。

*同じ野望が、人間の墮落につながる。

③善悪を知るようになる。

(5) サタンの方法論

①神の知恵、愛、義に疑問を投げかける。

②神のことばを否定する。

③不従順が、よりよい結果をもたらす。

2. 墮落(3：6)

(1) Iヨハネ2：16にある3つの分野での誘惑。

①食べるのに良く

②目に慕わしく

③いかにも好ましかった。

(2) 食べることで、今持っていないものを手に入れる。食欲。

(3) エバの墮落

①彼女は、助け手としてではなく、新しいことを始める役割を果たしている。

②蛇がエバに対して果たした役割を、エバがアダムに対して果たしている。

(4) アダムの墮落

①「いっしょにいた」。アダムはそばにいて見ていた。

②アダムは頭としての役目を果たさず、罪の行為に同意した。

(5) 罪の重みが異なる。

①エバは欺かれた。

I テモテ 2 : 13~14、II コリント 11 : 3

②アダムは、知っていて行った。反逆の罪。アダムの責任が大きい。人類の代表。

ロマ 5 : 12~21 I コリント 15 : 20~23

(6) エデン契約の破棄

①ホセア 6 : 7

「ところが、彼らはアダムのように契約を破り、その時わたしを裏切った」

3. 霊的死 (3 : 7~8)

(1) ふたりの目は開かれた。サタンが約束したような内容ではなかった。

(2) 自分たちが裸であることを知った。

①積極的な意味での知識ではなく、「裸であること」を知った。

②恥の感覚。

③ 2 : 25 の裸は、「アルミム」(健康な関係)。

④ 3 : 7 の裸は「エルミム」(恥の感覚)。同じ意味であるが、異なった表記がされている。

⑤無垢な性質を失い、欲望を持つようになった。

(3) いちじくの葉をつづり合わせる。

①肌につけて着ること。

②中東では一番大きな葉をつける。

*タルムード：罪を犯した場所で、その繕いをする」と解説している。

(4) 腰のおおい(生殖器を覆う)

①自分の裸を隠そうとする。

②人間の命の源が罪によって汚れた。

③原罪が男女の肉体関係を通して子孫に伝わる。

詩篇 51 : 5

- ④互いの目から恥を隠すことに成功した。
- ⑤しかし、神の目から恥を隠すことはできない。
- ⑥これ以降、人の前に裸をさらすことは恥となった。

創世記 9 : 23、出エジプト 32 : 25、黙示録 3 : 18

(5) 神からの断絶：霊的死

- ①神の声を聞いた。シャカイナグローリーのこと。この場面では、声を先に聞いている。
- ②歩き回られる神。習慣的行為を示す。
- ③「そよ風の吹くころ」：中東の夕方。
- ④彼らは身を隠した。神との交わりが不可能となった。

*新しい関係(否定的な関係)が出たことを認識していた。

*罰に対する恐れ。神から隠れる。

⑤罪の結果

*人は罪人としての立場からしか、善悪を知ることができない。

*ロマ 7 : 19

「私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っています」

4. 神との対面 (3 : 9~13)

(1) 最初の質問

- ①「あなたは、どこにいるのか」。「アイェカー」という一語。神は知っている。
- ②「なぜ、隠れているのか」という質問。認罪を求めている。

創世記 4 : 9 カイン、創世記 16 : 8 ハガル

(2) アダムの答え

- ①どこにいるかは答えていない。
- ②今まで経験しなかった「神への恐れ」を経験したと答えている。
- ③アダムは裸ではない。自分が神の前に裸であるという認識が、彼に恐れを与えた。
- ④「私」という主語。エバに罪を押し付けていない。

(3) 第2の質問

- ①「裸であるのを、だれがあなたに教えたのか」。裸であることは分かる。

*この質問は、裸であるという認識に至った理由を聞いている。

*答えはないし、期待もされていない。

(4) 第3の質問

- ①抽象から具体的な質問へ。
- ②罪に定めるのではなく、告白を導く質問。

(5) アダムの回答

①単純な告白ではない。

*間接的に神の責任を問う。

*間接的にエバを責める。

*犯罪者が被害者になる。

②認罪は、文章の最後に来ている。

③自分の責任を過小評価する。罪がアダムの性質を腐敗させている。

(6) 第4の質問。エバに直接問いかける。

(7) エバの回答

①蛇に責任をかぶせる。

②蛇にだまされたことを認める。

③「あなたが置いた」とか、「あなたが造った男は止めなかった」とか、言っていない。

④彼女の認罪も、最後に来ている。

結論

1. 人類の罪のルーツはここにある。

2. 霊的死という事実

(1) 人は罪を犯さないわけにはいかなかった。

(2) 自力救済は不可能である。

(3) エデン契約は破棄された。

(4) 新たにアダム契約が結ばれる。

①罪人を呼び戻す神。

②問題を解決するメシアの登場

*サタンを裁く。

*罪の問題を処理する。

*死の問題を処理する。